

頸動脈内膜剥離術における中膜温存と術後再狭窄についての検討

■ 研究の対象となる方

2005年6月～2011年5月に頸動脈狭窄症に対して頸動脈内膜剥離術を受けた方

■ 目的と方法

この研究は

頸動脈内膜剥離術は頸動脈狭窄に起因して起こりうる脳梗塞に対して行う予防的手術ですが、一定の割合で剥離部位の再狭窄を来す事が知られています。この再狭窄は、2年以内に起こる“内膜肥厚”と、それ以降の“動脈硬化性病変形成”の2段階で起こります。再狭窄に対する治療のほとんどは2年以内に施行されていることから、いかに2年以内の内膜肥厚の発生を抑制できるかが重要です。

今回、頸動脈内膜剥離術における中膜温存の有無とその後の再狭窄の関係が分かれば、頸動脈内膜剥離術を受ける患者さんにとって、再狭窄に伴う再治療の可能性が低くなることになるため、診療記録より情報を収集し、後方視的に検討しました。

■ 実施期間

2020年8月25日～2021年3月31日

■ 研究に使用する情報

超音波検査結果、手術ビデオなど

診療の中で得られた情報を使用します。この研究のために新たな検査や調査をお願いすることはありません。

■ お問い合わせ

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

連絡先	済生会熊本病院 脳神経外科 医長 加治正知（研究責任者） 住所：熊本市南区近見5丁目3番1号 電話：096-351-8000(代表)
-----	---

以上